

ス
リ
ッ
プ

カブリッヰキ

隔月連載

有賀美雪の

楽屋育ちのひとりごと 17

お礼が言えなかったことの

悔しさ



プレマガ読者のみなさん、
そしてストリップファンのみ
なさん、こんにちば。有賀美
雪です。

この頃、ふりかかる出来事
があまりにも強烈で、そして
大事件なだけに、私はちょっ
と弱気になっています。

いつも毎日のように、最後
のあいさつで「ストリップパー
として生きる人間として、何
かのお役に立ちたい」なんて
言ってますけど、本当のところ
は、何もできないのかもし
れない。ただ言うだけなら誰
でも言えるし、それだけなら

私が一番嫌いな口先だけの人
間になってしまふ。でも、今
の有賀を見ると、どうしやう
もなく口先だけの人間になっ
て考えてしまふ。

と、言うのも7月28日、関
西のある劇場で私たち踊り子
は、ちょっとした事件があつ
て、出演者全員楽日まで舞台
を努めることができなかった。
その劇場のお馴染みさん
方に何のお礼や挨拶もできな
いままに、その週が過ぎてい
ってしまい、中途半端な思い
がいまだに心の中に残ってい
るのです。

その場の状況を考えれば、
残りの日の挨拶ができなくて
も当然のことだし、お客さん
の方だって、そんなこと気に
留めてはいないかもしれない。

でも私は、関西の劇場には
特別な思いがある。私は関東
の踊り子。デビューしてまだ
2週くらいとき、大阪の劇
場に出演したときには、なん
だかよそ者扱いを受けている
ような印象を受けた。私が出
ると、すぐに席を立たれ、拍
手ももらえずにステージを終
わらせたこともあった。

「今にみている、手を叩かな
いお客さんに、絶対に拍手を
させてみせる」と、いつもそ
んな思いで大阪に行っていた。
そして何回も行っている間
に、お客さんたちも暖かな拍
手や声援を送ってくれるよう
になった。とくに今回、関西
のお客さんたちは本当に私に
よくしてくださっただけに、
何のお礼もできなくて、中途
半端に終わってしまったこと
はショックだった。

ところで、さっき書いた、

「ちょっとした事件」って、
まあ、わかる人にはわかると
思うけど、私たちのやってい
ることが社会の良識に合わな
いってことかな。

でも、日本ってこの50年く
らいの間に、とても急成長し
てるわけでしょ。なのにと
うして、いろんな決まり事だけ
はストリップしているんでしょ
うか。それとも、こうした決
まり事はすべて建て前だけの
もので、実際には関係ないん
でしょうか。

ストリップがいけないのな
ら、奥さんや恋人のいない男
性は、女性の裸をどこで見た
らいいのかしら。覗きとかし
たらもっと罪人だし、第一、
覗かれた女性に迷惑がかかる
じゃない。わいせつっていう
のなら、私たちが生まれるも
と自体がわいせつじゃないの
ですか。だったら、この世の
人すべてが罪人なんでしょう
か。そんなのすごく寂しいこと
だと思ふんですけど。23歳を
目前にして、ちょっとまじめ
になつて考えてみました。